

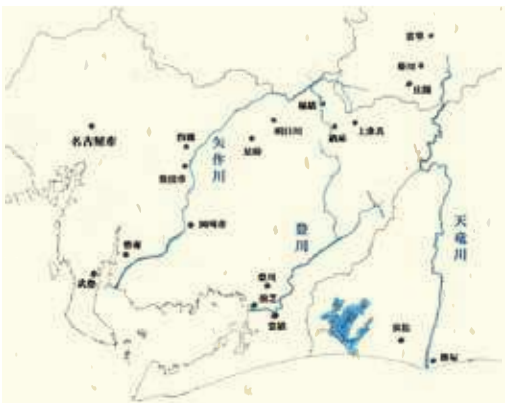
郷土館 発 鐵道のお話 VI

前回『中◇鐵道伊那及足助線踏測平面略圖』内の鐵道誘致文を紹介しました。その中にある地名をいくつか紹介します。

前芝

前芝と聞くと、潮干狩りとか豊川の河口ということが思い浮かびますが、実は古くからの湊町でした。江戸時代には、豊川の河口にあり、少し上流の吉田湊と合わせて栄えていました。私たちの設楽町を通る伊那街道の物資の多くが、新城から豊川の船便で吉田に送られ、湊から各地に運ばれていました。誘致文の中にも、

「豊川があり河口は前芝港なりすでに商船が停泊でき」



とあるように、明治期においても重要な港であったことがわかります。

武豊

武豊と聞けば、衣浦湾・衣浦港・衣浦大橋という言葉が浮かんできます。三河湾の奥に位置し波が穏やかで天然の良港です。武豊も古くからの湊町で、明治になってからも重要度は変わりませんでした。鐵道とのかかわりが深く、『東海鐵道線（現在の東海道線）』を建設する際の物資の陸揚げ港となりました。その際鐵道も敷設され現在に至っています。

掛塚（かけつか）

掛塚湊は、天竜川の河口にある天然の良港でした。江戸時代には、天竜川上流から集まる材木や遠州各地から集まる物資を江戸や大阪に送り出しました。また、幕府の年貢米を廻送する拠点ともなり、明治時代には、港を新しくしたようです。また津具には、掛塚にかかわりのある山仕事の道具やお話が残っています。

鐵道建設にまつわる資料を読んでいくうちに、三河を中心とした広い地域が昔から結びついていたことがわかりました。

※鐵道のお話は、

今回でひと区切りとなります。

（奥三河郷土館学芸員 渡邊 俊也）